

## 学会員の皆様へ ～ご挨拶～

日本藻類学会 会長 堀口 健雄

日本藻類学会は藻学の基礎から応用、教育までを対象とする国内唯一の学会であり、世界的にも古い歴史をもつ団体のひとつです。生物多様性保全、環境保全、資源活用の観点などから藻学の役割は益々重要性を増しておりますし、基礎的な分野では光合成・葉緑体の進化、真核生物の進化解明等に直接関わる分野として注目されております。従いまして、この分野の発展に対する日本藻類学会の果たすべき役割は大変大きいものがあります。一方、学会をとりまく環境は、学術刊行助成金の獲得が非常に困難になるなど、運営に関しては決して楽観できない状況にあると言わざるを得ません。これを克服するためには、学会のさらなる国際化、会員へのサービス提供による会員数拡大への努力などが必要です。

幸いここ数年は、今までの事務局・会員諸氏のご努力の結果、外国人会員に対する平等な権利の付与、会費振込の自動化、若手を対象とした分子や多様性に関するワークショップ開催、小笠原諸島の海藻相調査など学会活動の国際化、活性化が推進されてまいりました。このような活発な活動は学会を活性化します。そしてそれに呼応するように会員数も増加に転じつつあります。今後もこの流れを途切れさせることなく、さらに藻類学会の国際化（英語版ホームページのさらなる充実など）、国内会員へのサービス強化、そして専門家集団としての社会への貢献を推し進めていく必要があります。皆様のご協力をお願いいたします。



さて、今年はいよいよ第9回国際藻類学会議（IPC9）が東京で開催されます。日本藻類学会の重要な国際貢献として是非とも成功させたいイベントであります。すでに、少なからぬ学会員のご協力を得て準備が進んでおりますが、是非、多くの会員の皆様にご参加・ご支援いただきたくここにお願い申し上げます。

最後になりましたが、会長として微力ながら藻類学会のさらなる発展のために努力してまいります所存ですので、どうぞよろしくお願いいたします。

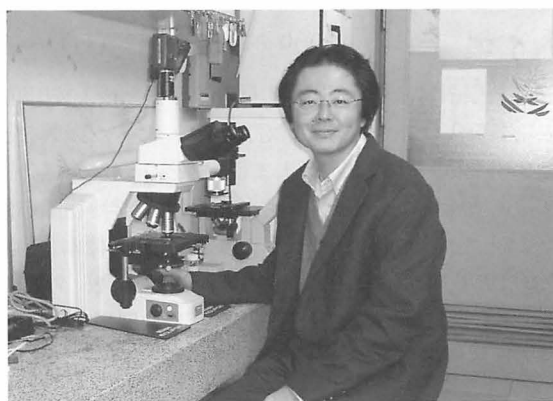
## 新米編集長のご挨拶

日本藻類学会和文誌編集委員会 委員長 寺田 竜太

和文誌「藻類」が届くことを毎回楽しみにしてきましたが、この度お送りする立場になりました。編集委員会委員や実行委員、執行部、そして会員の皆様のご協力をいただきながら、円滑な発行を目指していきたいと思っております。不慣れな部分も多々ありますが、どうぞよろしくお願いいたします。

北山前委員長の時代には、誌面体裁の改訂や編集ソフトウェアの更新、内容の充実が図られました。北山氏のご配慮で、編集のノウハウをそのまま引き継ぐことができました。「藻類」の出版は和文誌編集委員会によってDTP (Desk-Top Publishing) でおこなわれており、経費の抑制に大きく貢献してきました。この方針を踏襲することは当然の上、魅力ある誌面を維持しながら、さらなる経費削減に務める所存です。

原著論文の査読は、審査原稿のpdfファイル化やEメールでの連絡等でさらなる迅速化を図りますので、皆様の積極的なご投稿をお待ちしております。また、和文誌にはシンポジウム等のお知らせや開催報告、参加記等も掲載されます。



会員の皆様からの積極的な情報提供やご寄稿をお願い申し上げます。

原稿送付先：〒890-0056 鹿児島市下荒田4丁目50-20  
鹿児島大学水産学部水産学科